

いわき市水道事業のあゆみ

History of water supply business in Iwaki City

西暦 和暦

1917 大正6年 3月 いわき市水道局の出来事①～⑬は専用番印

1921 大正10年 11月 平町上水道給水開始①

1932 昭和14年 12月 小名浜町上水道給水開始②

1935 昭和17年 6月 湯本町上水道給水開始

1939 昭和21年 7月 江名町上水道給水開始

1942 昭和24年 9月 四倉町上水道給水開始

1946 昭和28年 1月 泉净水場の完成

1952 昭和32年 1月 久々浜町上水道給水開始

1953 昭和33年 1月 常磐炭鉱からの分水により内郷町上水道給水開始

1954 昭和34年 1月 小川町上水道給水開始

1956 昭和36年 1月 泉净水場の完成

1957 昭和37年 7月 勿来町上水道給水開始②

1960 昭和40年 1月 泉净水場の完成

1964 昭和44年 1月 水道料金の金融機関口座振替開始

1967 昭和47年 3月 「いわき市水道事業経営審議会」設置

1969 昭和49年 4月 合併前水道料金を調整統一

1970 昭和50年 1月 水道料金の金融機関口座振替開始

1971 昭和51年 3月 「いわき市水道事業経営審議会」設置

1972 昭和52年 4月 第一期拡張事業認可(Ⅲ)

1973 昭和53年 3月 「いわき市誕生」③

1974 昭和54年 4月 上水道施設統合

1976 昭和55年 3月 「いわき市誕生」④

1977 昭和56年 4月 「いわき市誕生」⑤

1978 昭和57年 3月 「いわき市誕生」⑥

1979 昭和58年 4月 「いわき市誕生」⑦

1980 昭和59年 3月 「いわき市誕生」⑧

1981 昭和60年 4月 「いわき市誕生」⑨

1982 昭和61年 3月 「いわき市誕生」⑩

1983 昭和62年 4月 「いわき市誕生」⑪

1984 昭和63年 3月 「いわき市誕生」⑫

1985 昭和64年 4月 「いわき市誕生」⑬

1986 昭和65年 3月 「いわき市誕生」⑬

1987 昭和66年 4月 「いわき市誕生」⑬

1988 昭和67年 3月 「いわき市誕生」⑬

1989 昭和68年 4月 「いわき市誕生」⑬

1990 平成1年 3月 「いわき市誕生」⑬

1991 平成2年 4月 「いわき市誕生」⑬

1992 平成3年 5月 「いわき市誕生」⑬

1993 平成4年 6月 「いわき市誕生」⑬

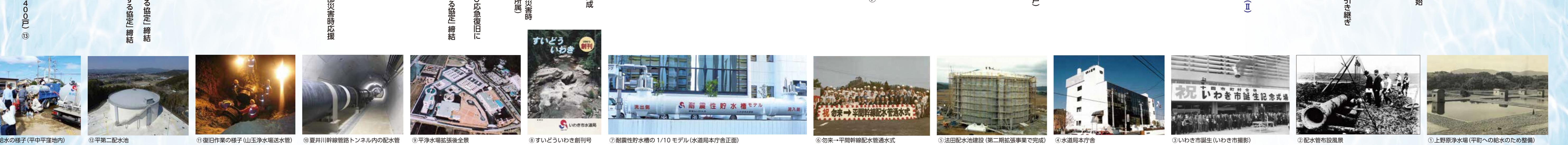
1994 平成5年 7月 「いわき市誕生」⑬

1995 平成6年 8月 「いわき市誕生」⑬

1996 平成7年 9月 「いわき市誕生」⑬

1997 平成8年 10月 「いわき市誕生」⑬

1998 平成9年 11月 「いわき市誕生」⑬



第三期拡張事業変更
Ⅵ 浄水処理方法の変更(平成26年度変更認可)
⑦326,300人 ⑧144,400m³
法田第一・ニボンプ場に紫外線処理を導入
第一環境株式会社と「災害時の応急給水に関する協定」締結

Ⅶ 給水区域の拡張(平成24年度軽微変更)
⑦322,000人 ⑧164,000m³
小名浜東港地区多目的国際物流ターミナル整備に伴う区域拡張

Ⅷ 給水区域の拡張(平成18年度軽微変更)
⑦338,000人 ⑧165,000m³
佐倉簡易水道の上水道統合に伴う区域拡張

V 第三期拡張事業(平成4年度～)
⑦374,000人 ⑧231,610m³
第二次拡張事業の認可取得後、昭和63年に常磐自動車道が開通し、首都圏との時間的距離が短縮され企業立地やリゾート開発が進み、生活環境等も変化してきたことから、給水区域の拡張、給水量の増加、水源の種別及び取水地点の変更を行い、将来の水需要に対応する事業を取り組み、平野簡易水道の廃止、低水圧解消、小規模浄水場の廃止統合、簡易水道2事業の上水道への統合、給水区域内未給水の解消、配水幹線の整備をするもの。

VI 第二期拡張事業(昭和57年度～平成3年度)
⑦374,000人 ⑧215,260m³
本事業では、常磐炭鉱専用水道の廃止統合に伴い譲り受けた鮫川水系及び夏井川水系の水利権と四時地区農業用水合理化対策事業(※)への参加により確保した水道用水など、新たな水源をもとに全体計画の見直しを行い、平、山玉、上野原の3浄水場の拡張、小規模浄水場の廃止統合、簡易水道2事業の上水道への統合、配水幹線の整備をするもの。
※農業用水合理化対策事業:農業水利施設を整備する事業で、整備の結果生じた農業用水の余剰分は、水道用水等に転用可能。

III 第一期拡張事業(昭和47年度～昭和56年度)
⑦374,000人 ⑧215,260m³
17事業(9上水道・8簡易水道)の廃止統合により創設された本市水道事業は、水源24か所、浄水場13か所、浄水施設19か所と施設が多く、その態様も多種多様で維持管理が困難であるほか、施設統合後も水能が需要に対し不足し、拡張工事の必要に迫られていたことから、平野簡易水道、法田第二ポンプ場(地下水)、山玉浄水場の新設。同炭鉱では昭和44年12月の掘削終了に伴い、翌年3月に専用水道への給水が廃止となるため、本市に対し移管について申し入れがあったことから、本市の給水区域に編入するため、閉山炭鉱施設整備事業(国庫補助事業)により、本市上水道との接続や施設の整備をするもの。

II 専用水道統合(昭和45年度～昭和46年度)
⑦350,000人 ⑧184,000m³
古河好間鉱は、好間川を水源とし自己の浄水場で浄水した水を、炭鉱の施設や住宅に給水する自前の水道(専用水道)を所有しており、その専用水道の給水区域は、本市上水道の給水区域に隣接していた。
昭和41年10月にいわき市が発足。当時は、夏季需要期に施設能力が限界に達し、常時減圧や断水が生じていた地区や水源難のため施設拡張のできない地区等があり、給水事情の改善が急務であったため、上水道9事業及び簡易水道19事業の内、遠隔地にあった簡易水道11事業を除いて廃止統合し、「いわき市上水道事業」として一元化を図るもの。

I 上水道施設統合工事(創設事業)(昭和44年度～昭和46年度)
⑦277,000人 ⑧102,490m³
昭和41年10月にいわき市が発足。当時は、夏季需要期に施設能力が限界に達し、常時減圧や断水が生じていた地区や水源難のため施設拡張のできない地区等があり、給水事情の改善が急務であったため、上水道9事業及び簡易水道19事業の内、遠隔地にあった簡易水道11事業を除いて廃止統合し、「いわき市上水道事業」として一元化を図るもの。

配水管整備事業とは?
大正中期から昭和40年代に布設された老朽配水管を更新し、管路の漏水事故や管内面の腐食による赤水発生等の防止を図り、維持管理の向上や安定給水を目的として昭和53年度から平成28年度まで実施したもの。

vi 重要給水施設配水管整備事業[平成29年度～] 災害時、優先的に給水を確保する必要がある救急病院など重要給水施設までの管路の耐震化を促進するもの。

vii 老朽管更新事業[平成29年度～] 法定耐用年数を超過した管路を計画的に更新するほか、今後超過する管路は、影響度等に応じて順次、更新を図るもの。

v 第五次(平成23年度～平成28年度) ⑦13.8km ⑧鉄管及びダクタイル鉄管

iv 第四次(平成15年度～平成22年度) ⑦50.0km ⑧鉄管及びダクタイル鉄管

iii 第三次(平成3年度～平成14年度) ⑦188.9km ⑧石綿セメント管

ii 第二次(昭和61年度～昭和60年度) ⑦57.7km ⑧石綿セメント管

i 第一次(昭和53年度～昭和60年度) ⑦92.2km ⑧石綿セメント管